ネパールの東部コシ川の支流スンコシ川の上流で発生した大規模崩壊により形成された天然ダムについて（第1報）

ＮＰＯ法人ネパール治水砂防技術交流会

2014.8．2（土）、ネパールの東部Koshi川の支流Sun Koshi川の上流で大規模な崩壊（斜面長1.9km、高さ1,350m）が発生し、Sindhupalchowk地方のMankha村とJure bazaarの約70戸が被災。(Image－)8月4日現在、33名が死亡、多数の負傷者が出ている他、百数十人が行方不明者となっている。

また、この崩壊により、上流側約3kmが水没し、中国のチベットに通じる重要な道路であるArniko Highwayが不通となっており、ネパールの経済活動への影響を心配する声が出ている。

崩壊の直下流にはSun koshi H.P.(10MW)の取水堰があると共に、3km上流のSanima H.S(2.6MW)が水没、川沿いにある他の発電所も含め電力供給への影響が懸念されると共に、形成された天然ダムの決壊による二次災害も懸念されており、ネパール国内の川沿いにある11のVDCの他インドのBihar州の住民４万4千人以上にも避難命令が出されている。また、インドとの国境にあるKosi Barraの56門のスルースゲート全てを開き、決壊洪水が来た場合に備えている。

天然ダムの貯水量は、700万m3と推定されているが、38km下流にあるPachuwarghat観測所の水位観測結果では、崩壊が発生したと思われる8月2日午前2時から約3時間後の5時頃から水位が低下し始め、15時間後の8月2日午後5時頃には水位が上昇に転じており、閉塞から13時間以内に越流が開始したものと思われる。現場の写真(Image－)でも天然ダムの上に越流水の水路が写っている。流入量は、上流にあるBahrabiseの観測所のデータでは約160m3となっている。(7,000,000/160/3,600=12)

（２０１４．８．６）

参考資料

**Eye on the Sun Koshi Landslide: Monitoring and Infrastructure Planning Key to Minimizing Scale of Disasters**

By Arun B Shrestha, Narendra R Khanal, Mandira Shrestha, Hari Krishna Nibanupudi, and David Molden on 04 Aug 2014

(http://www.icimod.org/?q=14356)